

やっぱり運動団体との決別カギか？

山崎町長の所信表明

(概略)

国の三位一体の改革で収入の減少、県費削減のなか、当面は単独運営を迫られる。自主財源がとばしい本町では今後が正念場を迎える。お金が無いときだからこそ、みんなで汗をかき「みんなでやれば、なんでもできる」を合言葉に次の重点を取り組む。人権尊重、住民主体のまちづくり、大きな字も小さな字も13集落ごとに輝き、一人一人が生き活きる自己実現のまちづくり、せせらぎ遊園のまちづくりの次なるステージに向かって、人権、環境、福祉、教育をキーワードとし、市町合併、子育て支援と農業、農村整備、何よりも安心と安全なくらしの実現をめざす。

議会内でのこのような滑り出しをするのが注目された山崎新町長の所信表明(概略は別記載)が21日、臨時議会開会冒頭にありました。議会運営委員会の協議を反映して、町長の所信表明後約20分の休憩をはさんで、傍聴者数人を前に、4人の議員が質問に立ちました。その概要を紹介します。なお、この他、人事院勧告に基づく給与改定の議案3件、全員賛成で可決。西澤議員は同議案の賛成討論を行いました。

4議員が 新町長の所信に質問

質問のトップバッターに立った大町議員は、町長選挙の結果にふれ、同和事業のゆきづまりが背景にあること、ハード事業に(税金を)投入することは終わってほしいことなどをあげ、町の教育長経験者と町民になって間のない相手候補との差が4百票余りだったことについての見解を求めました。

山崎町長は結果を謙虚に受け止め、4百票の差の重みを感じていると答弁。

北川豊昭議員は、交付税などが減らされる状況にふれ、政権党を無視するわけにはいかない、「政権党との連携」を求めました。

山崎町長は、甲良民報の記事にあった「不偏不党」の精神を紹介しながら、政権政党とも連携するなど答弁。

田中議員は、集落営農への対応、「決算主義」が斬新であることなど、期待しているとした上で、税等の滞納問題の取り組みに対する見解を求めました。

山崎町長はエールを送っていただいたと応じたうえで、職員とよく協議し、努力する見解を明らかにしました。

「お金が無い」自覚があるなら進んで給与削減を

西澤議員は2番目に質問し、山崎町長が並みの経歴の持ち主ではないからこそ、明確で法と良心に基づいた行政対応を求めるとして、次の項目をただしました。人権が大切というなら個人情報保護条例を、町長の公約にある行財政改革の中の「自らを律し」とは町長給与削減の実現があるのか。「新たな公」とは何か。「新たな地域自治システム」とは何か、議会軽視とはならないか。水道の盗水、町有地占有などルールからの逸脱に対する基本姿勢をただしました。

山崎町長は、個人情報保護条例は今年度中の制定をめざすとし、町長給与の削減は考えていないと説明。これに対し西澤議員は再質問で、甲良町の財政事情をよく知っている山崎町長が、自らを律しといっつのは自らの給与を削減して模範を示す必要がないのかと迫ると、給与額は地位を表すものとの見解を示し、今のところ引き下げつもりはないと応じました。盗水、町有地占有などルールからの逸脱に対して、「許されるものではない」としたものの、町有地不正占有問題については、相変わらず同促の協議を尊重する立場を表明。西澤議員が同促に任せただからこそ不正が横行した反省がないと指摘し、支払命令など法的手段の決断が必要との提起にも、山崎町長は、行政が独自に入れないとし、運動団体におもねって行政の主体性を弱める見解にとどまりました。

今後も議会の監視機能を果たすかどうか町民の熱い線視が注がれることでしょう。



12月議会予定

12月6日(火)開会
提案、質疑、討論、採決
12月9日(金)最終日
一部討論・採決、一般質問

28日の議会運営委員会で詳しい内容が協議され、確認される予定です。

甲良民報

2005年11月27日 No304
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土463
Tel.Fax38-4949
Eメール info@jcp-nobuaki.com
のぶあきホームページ
http://www.jcp-nobuaki.com/